

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大 学 名	立教大学
整理番号	B19
構 想 名	グローバルリベラルアーツ×リーダーシップ教育×自己変革力 ー世界で際立つ大学への改革ー

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) 本構想における「カリキュラム」「学生の意識」「ガバナンス」を軸とした改革はそれぞれ着実に進化しており、特に「カリキュラム」改革において著しい成果が認められる。中でも、構想の中核を担うグローバル教養副専攻の登録者数を始め、シラバスの英語化、GLAPの全学展開、外部英語試験の学部入試活用等、全学的対応分野で大幅な実績向上が得られた点は、前回中間評価時の指摘を踏まえた優れた取組として評価する。 また、大学としての中長期計画である「国際化戦略 RG24 (Rikkyo Global 24)」、さらに RG24 を抱合する中長期計画「RIKKYO VISION 2024」に基づく SGU 構想は、平成 30 年度の総長交代後に描かれた「総合発展基本構想」及びこの中で中核戦略に位置付けられる「立教グローバル戦略 2.0」とも連携が図られており、今後も十分な学内推進力が維持可能な体制と評価する。加えて、国際化推進機構の体制強化を始め、外国語教育研究センターや陸前高田グローバルキャンパス等、構想推進を担う基盤整備についても期待値に適った進捗が認められる。 一方、目標値達成状況については、着実な成果の積み上げが果たされているものの、未だ十分とは言い難い。大幅な乖離が生じている学生の語学力を始め、外国人留学生数（大学間協定に基づく受入外国人留学生数を除く）や日本人学生の留学経験者数、外国語による授業科目、コース等、少なからぬ指標で未達成な点は改善が強く求められる。意欲的な目標設定であることは認めつつも、今後は、教育改革と国際化推進の統括組織の可視化や、学生の意識・行動改革を促す戦略的プログラムの強化等を通じ、確実に目標が達成されるよう一層の取組強化が図られることを期待する。 なお、今後重要となる財政支援期間終了後を見据えた自走化については、当初から自走化を前提とした構想であり、大学としての中長期計画の中で明確に位置付けられていることから安定感のある対応がなされている。自主財源の確保についても、既に寄付金の活用や留学に係る新たな有償プログラムの導入等が進められており、十分期待できる状況と評価する。今後は、社会状況の変化や新たな追加予算にも対応できるよう、柔軟な発想のもと、安定的で確実な外部資金調達への更なる工夫に期待したい。	